

# 淀川水系4ダムを巡る「二枚舌」に、元祖・脱ダム前知事も大批判! 橋下徹知事「ダム中止は一つ」で改革派気取りの嘘

取材文 横田一(ジャーナリスト)



▲脱ダム知事のように持ち上げられるが、府のダムは推進

「(橋下徹大阪府知事ら4知事は)『淀川水系4ダム』のうち一つを止めただけなのに、朝日新聞は『地方の反乱』と書いている。結局、『一つくらいダムを止めておかないと大変』という国交省の『ガス抜き』に加担している。」  
こう批判したのは、元祖・脱ダム知事と言え、前長野県知事・田中康夫参院議員(新党日本代表)。11月30日に都内で開催された八ッ場ダム関連集会で、田中氏は橋下知事らの改革派の化けの皮を剥いだのだ。  
田中氏が言う「淀川水系4ダム」とは、  
①「大戸川ダム」(滋賀県大津市1040億円)  
②「川上ダム」(三重県伊賀市1230億円)  
③「天ヶ瀬ダム再開発」(京都府宇治市100億円)  
④「丹生ダム」(滋賀県奈义町事業費未確定)  
である。いずれも国土交通省が洪水防止などの治水、飲用・農業・工業用水確保など利水目的で計画したもの。大阪・京都・滋賀・三重の4知事は、11月11日にこの4ダムのうち①の「大戸川ダム」だけは計画の白紙撤回



▲元祖脱ダム知事の田中康夫氏は11月30日に橋下知事らを批判



▲国交省の建設が困難になった滋賀県の大戸川ダム

を求める共同意見を発表した。  
だが、そもそも国交省近畿地方整備局の諮問機関でダム建設の是非を問われた「淀川水系流域委員会」(宮本博司委員長)は、4つのダムすべてを「ダム建設の効果は極めて小さい」としていた。しかし、知事らは②、③のダムの建設は推進で合意。④のダムについても事業計画不明で意見を留保した。流域委員の答申の4ダム廃止案から、たった一つのダム廃止に後退したのだから田中氏は「国交省の『ガス抜き』に加担」と批判したわけである。  
4知事が推進で一致した「川上ダム」にしても橋下知事が強権を発動すれば建設は簡単に中止に追い込まれる可能性が高い。川上ダムの建設目的の一つは、三重県などの水道用水である。しかし、このダムのすぐそばには「青蓮寺ダム」があり、大阪府と大阪市が年間9000万円で水を買っている。しかし大阪は現在水あまり状態。水をすべて買い続ける必要はない。「青蓮寺ダム」の水の一部を三重に回せば、「川上ダム」を建設する根拠は無くなる。流域委員は述べている。大阪市の役人の既得権を守るうとする言葉を呑みし建設費1230億円の大規模削減をしないのは、地元住民や国民の利益を失っている。と追及されても仕方がないだろう。  
①のダムを白紙撤回した橋下知事らも「国交省と闘う改革派」と評価する記事はいくつも出たが、批判的な記事は皆無。好意的なマスコミの空気を察知したためか、記者会見で橋下知事は「国交省の地方整備局はすぐに都道府県の下に入るべきだ。大阪府はいつでもお迎えする」とさらに改革派ぶった発言をした。だが、「淀川水系流域委員会」前委員長の今本博健・京都大学名誉教授はこう話す。  
「大阪府には府自体が工事主体となっている必要性に乏しい安威川ダム(1370億円)と横尾川ダム(100億円)の建設計画がありま



▲安威川ダムの巨大な付替道路建設現場を指さす「安威川の自然を守るネットワーク」の江菅洋一代表。ダム建設予定の横尾川は川幅わずか1m足らず。洪水防止でダム建設と言われて納得できるだろうか



▲知事らが再開発を了承した京都府にある天ヶ瀬ダム。三重県の川上ダムは付替道路の建設が始まっていた



工事中  
付替道路松青線  
標識設置(その1)工事  
区間 伊賀市 阿保 地内  
期間 5月16日-7月10日  
施工 株丸栄建設  
株丸栄建設 0595-63-3535  
株立行政法人水資源開発局  
川上ダム建設所  
発注者 0595-52-1661

すが、知事は両方とも推進しています」  
大阪府のダム担当課もダム推進の役人ばかり。そこに国交省の地方整備局が府の下部組織になっても、ムダなダム推進派が合体するだけ。脱ダムが進むわけではないのだ。  
府内のダム建設現場を見て回ると、知事が推進するダムがいかにムダかが分かる。  
大阪府茨木市の中心部から北に10㎞ほど行く、巨大な橋梁が安威川沿いに何本も現れてくる。この一帯が安威川ダムの水没予定地で、「新名神高速道路・高槻・神戸」の茨木北インターチェンジにつながる付替道路を建設しているのだ。「安威川の自然を守るネットワーク」の江菅洋一代表はこう話す。  
「道路建設のために、国からの補助金率が高いダム事業が利用されている形です。そもそも安威川ダムの治水効果は非現実的な雨量を前提にしたものだ。脱ダム案の河川改修費用を過大に見積もることで具体化されました。不用なダムで税金のムダ。貴重な動植物の宝庫を破壊することにもなります」  
もう一つの「横尾川ダム」の予定地(和泉市)でも、付替道路の工事が始まっていた。しかし予定地は幅1m足らずの小川にすぎず、取材に使ったタクシーの運転手は、「こんな川にダムを作るのか。もっと有効な税金の使い道があるはずだ」と啾然としていた。  
先の今本氏も「ダムの時代が終わろうとしているのに歴史に逆行する最悪の選択です」と橋下知事のダム推進をこう批判した。  
「安威川ダム計画は67年の北摂豪雨を契機に具体化しましたが、被害は主に支流の破堤によるものですから、本流にダムを作っても効果がなく、必要性に乏しい。横尾川も大雨時に溢れても被害はそれほど大きくはなく、10億円の税金を投じてダム建設をする必要はありません」  
橋下知事は、今本氏から一度直に意見をヒアリングした。しかし、結局、ダム見直しの意見を無視する形で2つのダム事業(約1500億円)の継続を決定した。  
こうして「二枚舌」的な橋下知事の立場を明らかにしようとしたが、すでに府議会や定例会見などで答えている、「という回答しか返って来なかった。橋下知事を国交省と闘う改革派とするには、無理があるようだ」